はじめての海外文学 vol.6

ナイルに死す
ハヤカワ文庫　980円＋税
アガサ・クリスティー著／黒原敏行訳

ナイル川クルーズの豪華船内で殺人事件が起きた。さまざまな人々の愛憎や欲望、打算がからみあうなか、名探偵ポワロと犯人がくりひろげる、火花散る頭脳戦。ラストの犯人の告白には、人生のすべてがある。この結末を読んだあと、あなたはどんな人生を選びますか？ ミステリーの女王・クリスティーの最高傑作！

青木悦子 翻訳家

白い病
岩波書店　580円＋税
カレル・チャペック著／阿部賢一訳

大理石のような白い斑点が肌にでき、しまいには死に至る「白い病」。世界中で感染が広がる中、ある町医者が特効薬を見つける。だが、その頃、元帥は戦争の準備を着々と進めていた……。疫病と戦争の結末は？『ロボット』のチャペックによる疫病文学、初の文庫化。

阿部賢一 東京大学准教授・翻訳する人

空飛び猫
講談社　760円＋税
アーシュラ・K・ル＝グウイン著／村上春樹訳

翼を持って生まれた猫の四兄妹が安住の地を求め、危険な都会から―文字通り―飛び立ちます。子猫の旅はもとより、わが子を案じつつ毅然と旅立たせるお母さんの姿が印象的。読後はすべての猫に翼が生えているように思えるから不思議なものです。中高生なら、「はじめての洋書」として辞書を片手に原書に挑むのもお勧め。

雨海弘美 翻訳者

ザリガニの鳴くところ
早川書房　1,900円＋税
ディーリア・オーエンズ著／友廣純訳

もうじゅうぶん話題になっているかもしれませんが、今年はこれを選ばずにいられませんでした。明快なミステリーとしても、力強い成長小説としても、自然を克明に描いた文学としても極上で、長さがまったく気にならない作品です。日本でもすべての年齢層に読んでもらいたい全米大ベストセラー。

越前敏弥 文芸翻訳者

魔術師の帝国《3 アヴェロワーニュ篇》
書苑新社　2,400円＋税
クラーク・アシュトン・スミス著／安田均・柿沼瑛子・笠井道子・田村美佐子・柘植めぐみ訳

恋人たちが逢引をする森で、艶然とラミアは微笑み、イルーニュの巨人は闊歩する……そこはアンバー家の館より通じる地アヴェロワーニュ。異端の詩人画家クラーク・アシュトン・スミスが、中世フランスを大胆に書き換え、現実と幻想の淡いを探った作品集で、最も早い時期にRPG化もなされた。長編詩「大麻吸引者」も必読！

岡和田晃
翻訳家、「ナイトランド・クォータリー」編集長

悲劇的な動物園 三十三の歪んだ肖像
群像社　2,000円＋税
リジア・ジノヴィエワ＝アンニバル著／田辺佐保子訳

20世紀初頭のロシア貴族の娘が主人公の短編連作集。前半は残酷だがおおらかな避暑地での生活が描かれ（育てた小熊は殺されるし、鶴の雛も娘の不注意で死ぬし、ロバは罠の輪に首をひっかけて死んでしまう）、後半は自由に憧れて学校でも家庭でも孤立し反抗して自殺まで考えるロマンチックな女性の自立が描かれている。

金原瑞人 法政大学教授、翻訳家

フィフティ・ピープル
亜紀書房　2,200円＋税
チョン・セラン著／斎藤真理子訳

ひとりとして同じ設定の人がいない五十人の市井の人々の日常と悩み。悩みはどこの国の人も同じなのだなあと温かい気持ちになって、きっとまえよりもっと韓国が、そして人間が好きになります。

上條ひろみ 翻訳者

パリのアパルトマン
集英社文庫　1,150円＋税
ギョーム・ミュッソ著／吉田恒雄訳

出逢いの場となったアパルトマンに、主人公ふたりは腰を落ち着けていない。画家の幻の遺作探しという、美術ミステリ好きにはたまらない謎に挑んでいるからだ。さらに物語は、人間ドラマの要素を絡めつつ怒濤のノンストップ展開へ。舞台はパリとニューヨーク、そしてクリスマスストーリーでもある、取り合わせの冴えた一冊。

北田絵里子 英米文学翻訳家

ブリティッシュ＆アイリッシュ・マスターピース
スイッチ・パブリッシング　2,100円＋税
ジョナサン・スウィフト他著／柴田元幸編訳

11名の作家による傑作短篇12作を収録した英文学アンソロジー。とはいえ、堅苦しい本ではありません。ちょっと怖かったり、にやりと笑ったり、思わずほろりとしたり。そんな心を揺さぶられる一冊です。きっと好みの一篇に出会えることでしょう。こちらが気に入れば、『アメリカン・マスターピース古典篇』もぜひどうぞ！

北村みちよ 英米翻訳家

白い闇
河出書房新社　1,300円＋税
ジョゼ・サラマーゴ著／雨沢泰訳

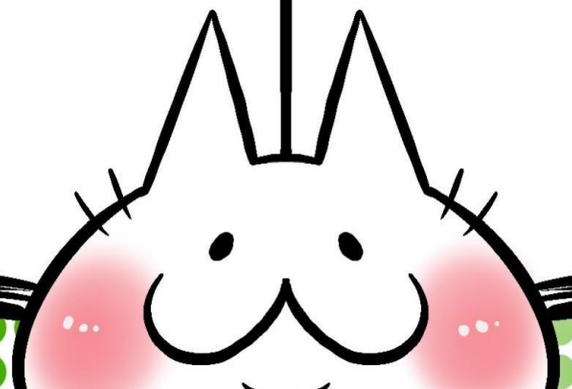
原因不明の伝染病で人々が次々に失明し、文字通り「阿鼻叫喚」の世界になっていく様子がリアルに描写されます。人間の理性とは何かを厳しく問う作品。25年間、私の「最恐トップ5」に入り続けている小説で、これまで無数の人に地味に勧め続けてみんなを怖がらせてきたのですが、今年思いがけず話題の一冊になりました。

木下眞穂 ポルトガル語翻訳家

ちいさな国で
ハヤカワepi文庫　900円＋税
ガエル・ファイユ著／加藤かおり訳

パリに暮らす33歳のラッパー、ギャビーは寝ても覚めても考える、13歳まで暮らしたブルンジのことを。クリスマスにもらったぴかぴかの自転車、通りに住む悪ガキたち、はちゃめちゃな11歳の誕生パーティ。でも突然、妹のアナとパリ行きの飛行機に乗せられて。人は生まれる土地も、時代も、親も、選べないけど、でも…。

くぼたのぞみ 翻訳家・詩人



はじめての海外文学 vol.6

文盲 アゴタ・クリストフ自伝

白水社　950円＋税

アゴタ・クリストフ著／堀茂樹訳

『悪童日記』(邦訳1991年)で衝撃的に登場した作家の、スリリングで鮮烈な魂の記録。短い章ごとに、子ども時代の生き生きした思い出や、難民として亡命した苦難、希望、不屈の精神などがシンプルな言葉で綴られていて、ぐいぐい引きこまれ、胸を揺さぶられます。そして人生に立ち向かう勇気が、心に満ちてきます。

河野万里子 翻訳家・上智大学非常勤講師

年月日

白水社　1,700円＋税

閻連科著／谷川毅訳

重厚な内容ながらするする読めて、フランスでは中高生向けの推薦図書となったというのも頷ける。未曽有の大旱魃に襲われた土地で、たった一人照りつける太陽に立ち向かう老農夫の姿に、自然と渡り合って生きてきた人類の歴史が重なる。そして、その農夫に最後まで寄り添う犬がとにかくいいんです。犬好きなら絶対泣きます。

小竹由美子 翻訳者

希望のいる町

作品社　1,500円＋税

ジョーン・バウアー著／中田香訳

親と縁の薄かった少女は、自分に「ホープ」という名をつけて、厳しい現実にも希望を抱きつづけようとがんばっている。移りすんだ田舎町では、天職のウェイトレス稼業と町長選の応援に大奮闘することに――胸に響くことばの数々、恋の話、そしておいしそうなものがいっぱいの、心がぽかぽかになる物語。

児玉敦子 翻訳者

秘めた情事が終わるとき

二見書房　1,180円＋税

コリーン・フーヴァー著／相山夏奏訳

頭蓋骨の砕ける音で始まる冒頭から物語は不穏な空気をまとい、抜き差しならない状況に追い込まれるヒロインの行く末を知りたくてたまらなくなること間違いなしの一気読みロマンチックサスペンス……と思いきや、めっちゃホラーです。日常を忘れて小説の世界に没頭したいすべての方におススメの異色ロマンスをご堪能あれ。

小林さゆり 翻訳家

贖罪

新潮文庫　840円＋税

イアン・マキューアン著／小山太一訳

姉の恋人を有罪にしたのは妹の証言だった――多感な少女の嘘と戦争に引き裂かれた恋人たちの悲劇。さらに、その先に待ち受ける新たな謎。何度読み返しても、小説だからこその繊細な仕掛けが織りなす迷宮をさまようことになるでしょう。ベネディクト・カンバーバッチの怪優ぶりが光る映画『つぐない』の原作です。

駒月雅子 翻訳家

ならずものがやってくる

ハヤカワepi文庫　1,200円＋税

ジェニファー・イーガン著／谷崎由依訳

A/B面13曲という章構成でヴィニールジャンキー心をくすぐり、パンクスくずれの音楽プロデューサーとその助手を軸に、章ごとに替わる主役たちの現在・過去・近未来を紡いでいく。ポップさと実験性(12章は必見！)を両立させた、2010年代を代表する長篇、あるいは連作短篇集、あるいはコンセプトアルバム。

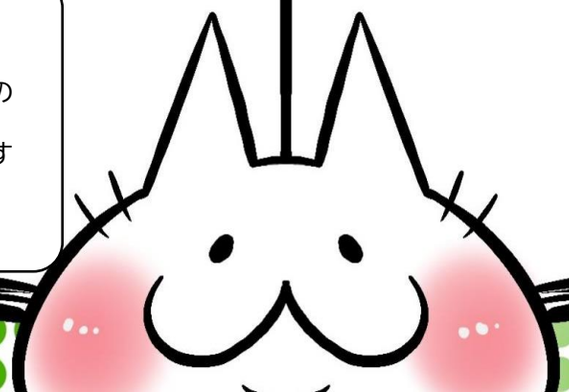
近藤隆文 翻訳者

はじめての海外文学関連サイト

Twitter　@kaigaibungaku

公式サイト　https://hajimetenokaigaibungaku.jimdofree.com

はじめての海外文学フェアと関連イベントの情報はもちろん、日本で一番(？)充実した海外文学・翻訳書イベント情報を日々更新するサイト。のぞいてみてね。



あのころはフリードリヒがいた

岩波書店　770円＋税

ハンス・ペーター・リヒター著／上田真而子訳

海外文学を読むことは、新しい扉を開けること。それは人間の怖さを知るための扉でもある。ナチス政権下で命を含むすべてを失った少年フリードリヒ。多分、一度読んだら一生忘れられない人だ。彼と出会ったらぜひ、関東大震災当時の朝鮮人虐殺事件など、日本で起きた民族差別事件についても知ってほしい。

斎藤真理子 翻訳者

ベルリン1919 赤い水兵(上)

岩波書店　1,200円＋税

クラウス・コルドン著／酒寄進一訳

ドイツの歴史を1918年〔第1次世界大戦と革命〕1932年〔ナチ政権誕生〕1945年〔敗戦〕と3つの転換期から描くベルリン3部作1冊目。面白すぎて最後まで一気読み(と、1冊のふりして6冊推薦)。鍵は、社会の既成概念に染まっていない、しかし社会の影響を一番受ける子どもの視点で描かれていること。傑作！

三辺律子 翻訳家

断食芸人

白水uブックス　1,100円＋税

フランツ・カフカ著／池内紀訳

ほんとにはじめてのはじめてなら『変身』だろうが、さすがにそれは知ってるよという声も多いと思うので『断食芸人』に。20世紀の超必読作品を無理やり選ぶとしたらやっぱりカフカ作品群では。どう読もうと勝手ですがまずは「教訓を探さない」「意味を求めない」のがいいと思います。

柴田元幸 アメリカ文学翻訳者

ジョージと秘密のメリッサ

偕成社　1,400円＋税

アレックス・ジーノ著／島村浩子訳

「私が子供の頃にこの本を読めたら、どんなによかったか」そんな声が日本の編集部にも寄せられている本です。体は男の子、心は女の子という小学生の物語。「自分はまわりと違う」と感じている主人公の心理描写は年齢や性別を問わず、読者の胸を揺さぶります。ふだんは児童書をあまり読まないという方もぜひ！

島村浩子 出版翻訳者

舎弟たちの世界史

新泉社　2,200円＋税

イ・ギホ著／小西直子訳

映画『タクシー運転手』に涙した人にぜひ読んでほしい、「ストーリーテラー」イ・ギホによる長編小説。全斗煥(チョン・ドゥファン)による軍事独裁政権下にあった1980年代の原州(光州ではない)を舞台に、もう一人のタクシー運転手の悲劇がまるでコントのように軽妙に、そして、アイロニカルに語られる。

清水知佐子 翻訳家

羊飼いの指輪 ファンタジーの練習帳

光文社古典新訳文庫　762円＋税

ジャンニ・ロダーリ著／関口英子訳

今年はロダーリ生誕100周年。彼の人間愛を礎としたファンタジーは、歳月を経た今も変わらぬ輝きを放っています。現実と向き合うのがしんどくなった時、この「練習帳」を開いて、ロダーリと一緒に物語の結末を考えてみてください。現実の旅にも負けないくらい頭がリフレッシュでき、心も格段にしなやかになるでしょう。

関口英子 翻訳家

珈琲の哲学

ぎょうせい　1,700円＋税

ディー・レスタリ著／福武慎太郎、西野恵子、加藤ひろあき訳

これまであまり紹介されてこなかったインドネシアの現代を舞台にした短編と詩で構成された一冊。気候も文化も社会のあり方も日本とはずいぶん違うのに、作品に描かれる心の揺れは覚えのあるものばかり。海外文学ならではの「違うのに同じ」をたっぷり味わえます。

芹澤恵 翻訳者

はじめての海外文学 vol.6

燃えるスカートの少女
角川文庫　600円＋税
エイミー・ベンダー著／管啓次郎訳

エイミー・ベンダーが描く奇妙な空想世界は、どこか妙にリアルで身近に感じられて、とても面白い。それはたぶん、奇妙な世界の中で登場人物たちが感じる気持ちや感情が現実の僕たちのそれととても近く、とてもリアルに描かれているからだと思う。天才的妄想にゾクゾクしたい方はぜひ。

田内志文 ほんにゃく仮面

プルーストと過ごす夏
光文社　2,300円＋税
アントワーヌ・コンパニョン他著／国分俊宏訳

プルーストの魅力を多岐にわたって解説した魅力的な本。訳文が何より素晴らしい。

高遠弘美 明治大学教授

ヘルプ 心がつなぐストーリー（上／下）
集英社　上：686円＋税、下：648円＋税
キャスリン・ストケット著／栗原百代訳

キーワードはトイレ。今も世界中を揺るがしている人種差別問題について、1960年代のアメリカ南部を舞台にユーモアを交えて描いた作品。古き良きアメリカ中上流家庭をヘルプとして支え、差別的な待遇を受けつつも希望を失わなかった黒人女性たちの勇気と連帯にきっと誰もが涙するはず。

高橋佳奈子 翻訳者

日曜の午後はミステリ作家とお茶を
東京創元社　1,020円＋税
ロバート・ロブレスティ著／高山真由美訳

ミステリ作家シャンクスの日常を描いたほのぼの連作短篇集。妻の尻にしかれ、ことあるごとにぼやき、「事件を解決するのは警察だ。ぼくは話をつくるだけ」と言いながら、なぜか事件に遭遇し、解決してしまう。そんな愛すべきシャンクスに、あなたも出会ってください。

高橋知子 翻訳者

リスタート
あすなろ書房　1,600円＋税
ゴードン・コーマン著／千葉茂樹訳

ある日目覚めたら、鏡に映っているのは知らない顔。事故で記憶を失った少年の、本当の意味での自分探しがはじまる。過去の自分はヒーロー？ それとも邪悪な問題児？

千葉茂樹 翻訳者

アダムとイヴの日記
河出書房新社　780円＋税
マーク・トウェイン著／大久保博訳

「アダムとイヴの日記が発見され、マーク・トウェインが解読した」という設定の短編です。単純で現実的なアダムと、思索的で好奇心旺盛なイヴ。ふたりのすれ違いぶりにくすくす笑い、最後にふたりが日記に書いた言葉に胸を衝かれ――短いながらもいろんな感情を揺さぶられる、トウェインの隠れた名作です。

富原まさ江 英日出版翻訳者/図書館司書

カシタンカ
未知谷　2,000円＋税
チェーホフ著／児島宏子訳

ロシア文学はドストエフスキーやトルストイだけじゃない。茶色の犬、カシタンカがこの物語の主人公。ジャケ買いOKの可愛いロシア文学。「桜の園」「かもめ」のチェーホフさん、こんな作品も書いているんです。愛犬家のみなさま、犬死なないから安心して読んでくださいね。

永田千奈 翻訳者

ケルトの白馬［新版］
ほるぷ出版　1,600円＋税
ローズマリー・サトクリフ著／灰島かり訳

イギリス南部の丘に遺る古代の地上絵「アフィントンの白馬」。草地を削り白亜の土壌で描かれた巨大な馬は、時を超える力強さと儚さをたたえている。この神秘の遺跡に作者サトクリフは、かつて敵にこの地を追われた部族の悲劇と、彼らの運命を背負わされた若者の孤独な魂を見出した。悲しみの中に深く美しい余韻を残す物語。

中村久里子 翻訳者

余生と厭世
早川書房　2,300円＋税
アネ・カトリーネ・ボーマン著／木村由利子訳

主人公は他人の心の苦しみを受け止める精神科医。医師としての知識を持っているからといって、苦しみを受け止める許容量が他人より大きいとは限らない。出口の見えない話を延々と聞かされてうんざりすることもある。自分の仕事に疲れた医師は自分の引退期限を決める。救いがないようで不思議に心が楽になる、そんな小説。

夏目大 翻訳業

ヘミングウェイ短篇集
筑摩書房　880円＋税
ヘミングウェイ著／西崎憲訳

自分の訳したものを推薦するのはそれこそ生まれてはじめてですが、はじめて読む海外小説にふさわしい要素をいくつか具えているように思うのでこの短篇集を推薦します。

西崎憲 英米小説翻訳者

樹木たちの知られざる生活
ハヤカワ文庫NF　700円＋税
ペーター・ヴォールレーベン著／長谷川圭訳

木は助け合っている！ 自分を表現する手段を持っている！ 森林監督官が語る驚くべき森の物語。不思議で魅力的な自然に引きこまれて心が癒されると同時に、木々の生態が人間世界への厳しい警告にもなっていて、唸らされる。

野口百合子 翻訳家

キャパとゲルダ ふたりの戦場カメラマン
あすなろ書房　1,800円＋税
マーク・アロンソン ＆ マリナ・ブドーズ著／原田勝訳

1934年、パリで出会った亡命ユダヤ人の男女、ロバート・キャパとゲルダ・タローは、スペイン内戦を最前線で取材し、報道写真に新しい風を吹きこみます。出会いから、ゲルダが不慮の死を遂げるまでわずか3年弱。火花のようにきらめいた、若い二人の共同作業を鮮やかに描くノンフィクション。

原田勝 翻訳者

ニューヨークの魔法使い ＜（株）魔法製作所＞
東京創元社　980円＋税
シャンナ・スウェンドソン著／今泉敦子訳

平凡なOLが魔法を作る会社に転職し、魔法使いに囲まれて仕事をすることに。奇想天外なお話に思えるかもしれないけれど、ファンタジー成分がほどほどで、違和感を感じずにすると読めます。わたしたちには見えないだけで、この世界にはエルフや妖精が実在しているのかも。そんなふうに思わせてくれる小説です。

東野さやか 翻訳者

悲しみよこんにちは
新潮社　490円＋税
フランソワーズ・サガン著／河野万里子訳

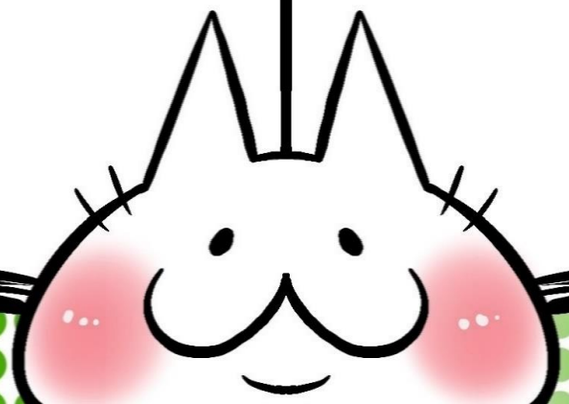
17歳のセシルが大好きな父と別荘で過ごすひと夏のできごと。とんでもない企みでおとなたちを翻弄しつつも自分を持て余し、揺れる十代の心のあやうさ、いとけなさ、残酷さ。家族とは何か。自分とは何か。いまの時代だからこそ鋭く胸に刺さります。50年以上も前の作品とは思えない新鮮な魅力にあふれた一冊です。

布施由紀子 出版翻訳家

ムーミン谷の仲間たち（ムーミン全集［新版］6）
講談社　1,500円＋税
トーベ・ヤンソン著／山室静訳

皮肉を言われ続けて体が透明になった子。晴天なのにいつ嵐が来るかとおびえる女。9つの短編の主人公たちは、本当の自分、大切な何かを探している。「ひとりきりでいられることの、大きな大きなよろこび」（本書より）こんな言葉が心に響く人に、年齢問わず、そっと（でも熱く）おすすめ。ぜひ、みずみずしい［新版］で！

古市真由美 フィンランド語文学翻訳



はじめての海外文学 vol.6

保健室のアン・ウニョン先生
亜紀書房　1,600円＋税
チョン・セラン著／斎藤真理子訳

不思議な力を持つアン・ウニョン先生はBB弾とレインボーカラーのおもちゃの剣を武器に、私立M高校に次々と起こる怪奇現象や魔物の手から生徒を守ってくれます。世界中が大変な状況にある2020年、何度「あぁ、ウニョン先生がいてくれたら」と思ったことか。大人だけでなく中高生の皆さんにもおすすめしたい傑作です！

古川綾子 韓国語翻訳者

密のように甘く
亜紀書房　2,000円＋税
イーディス・パールマン著／古屋美登里訳

十篇からなる短篇集です。人の営みの非凡さと愛おしさが描かれていて、作家の視野の広さに驚かされます。海外文学を初めて読む人であればなおさら、良質な文学作品に触れてほしいですね。

古屋美登里 翻訳家

蜜蜂
NHK出版　2,000円＋税
マヤ・ルンデ著／池田真紀子訳

蜜蜂が絶滅し、人類が危機に瀕した世界と、それまでの過程を描いた小説。並行して語られる、三つの時代、三つの国の、一見関係なさそうな三つの物語が、最後にかちりとはまってひとつになるのが気持ちいいんです！ 自然と人間のかかわりについて、国の枠にとらわれない、広い視点から考えさせてくれる本でもあります。

ヘレンハルメ美穂 翻訳者

IQ
早川書房　960円＋税
ジョー・イデ著／熊谷千寿訳

新世代ヒップホップ私立探偵小説。日本の日常とはだいぶ異なる環境が描かれているけれど、主人公の心情にああ、わかる。と思う瞬間がいくつも詰まっている翻訳小説の醍醐味があり、昨今の報道を見てこれを推したいと思った1冊です。

三角和代 翻訳業

わたしの全てのわたしたち
ハーパーコリンズ・ジャパン　1,700円＋税
サラ・クロッサン著／最果タヒ、金原瑞人訳

人とちょっと違うけれど、ちっとも違わない、わたしとわたしたち。2人でひとつの結合双生児のわたしたちが、2人でひとつの訳者によって、ヒリヒリ痛い、でもみずみずしい言葉でそこに立ち現れます。じっくりと噛みしめてほしいポエティックな作品です。

宮崎真紀 スペイン語圏文学・英米文学翻訳者

クレーヴの奥方
光文社古典新訳文庫　960円＋税
ラファイエット夫人著／永田千奈訳

見初められて「クレーヴの奥方」となった若き女性に本命の男が出現。新訳で17世紀の小説に挑戦してみましょう。

宮下志朗 フランス文学者

ブロード街の12日間
あすなろ書房　1,500円＋税
デボラ・ホプキンソン著／千葉茂樹訳

ブロード街に「青い恐怖」が現れ、近所に住む知人や友人が次々と死んでいく。コレラの原因が「汚れた空気」だと信じられていた19世紀のロンドン。両親も家もなくし、泥さらいとして生きる13歳の少年イールが、スノウ博士の助手となって名探偵のように活躍し、井戸水に原因があることを証明する。史実にもとづいた物語。

向井和美 翻訳家

まっぷたつの子爵
岩波書店　520円＋税
イタロ・カルヴィーノ著／河島英昭訳

レアリズム・民話・ファンタジー・ポストモダン…時代とともに変容しつ続けたイタリア20世紀の作家カルヴィーノが書いた歴史空想小説。まっぷたつに善人と悪人に切り裂かれた主人公が読まれた1950年代とは異なる指標で世界が分断されてしまった今、あらためて読みたい物語。秋には白水社から新訳も出る予定です。

村松真理子 大学教員（イタリア文学研究）

コピーボーイ
岩波書店　1,800円＋税
ヴィンス・ヴォーター著／原田勝訳

新聞社でコピーボーイをする少年は大事な人の死亡記事を胸に、その人との約束を果たす旅に出る。折々にその人の言葉を思い返す旅だが、疾走感がある。『ペーパーボーイ』から6年後の、青年期の入口に立つ少年と、訳者の仕事に「勢い（エラン）と落ちつき（アプロン）と華（エクラ）がある」。

母袋夏生 イスラエル・ヘブライ文学翻訳者

風の影（上／下）
集英社文庫　上：950円＋税、下：1,000円＋税
カルロス・ルイス・サフォン著／木村裕美訳

今年亡くなったカルロス・ルイス・サフォンへの哀悼の意を表して。少年が「忘れられた本の墓場」から持ち帰った『風の影』という本のためにつけ狙われる、ヒッチコック張りのサスペンス。「忘れられた本」は忘れられた人々の忘れられた物語を秘したパンドラの箱なのだ。

柳原孝敦 翻訳家、大学教員

大いなる遺産（上／下）
新潮社　上：710円＋税、下：710円＋税
チャールズ・ディケンズ著／加賀山卓朗訳

何十年ぶりかで読みなおしました。ハラハラドキドキで、やっぱり面白い！ ヴィクトリア朝の雰囲気が堪能できます。ディケンズを読まないのは人生の損失だよね、とあらためて思いました。

山本やよい 英米文学翻訳家

となりのヨンヒさん
集英社　1,800円＋税
チョン・ソヨン著／吉川凪訳

隣の部屋の住人はガマガエルに似ている。まさか、一度お茶でも飲みに来てくださいという挨拶を真に受けて遊びに来るなんて……。韓国文学なんか読んだことないという人も、SFファンもSFなんか知らないという人も、文学よりLGBT問題が重要という人も、表紙デザインにつられる人もなぜか楽しめる、15篇の物語。

吉川凪 韓国文学翻訳家

あの本は読まれているか
東京創元社　1,800円＋税
ラーラ・プレスコット著／吉澤康子訳

米ソ冷戦時代にソ連で発行禁止となり、のちにノーベル文学賞を受賞した『ドクトル・ジバゴ』をめぐる、事実とフィクションが見事に融合した小説です。CIAが暗躍しますが、実際の主人公はタイピストをはじめとする女性たち。歴史の陰で秘密を守り、性差別に悩みつつも、信念を曲げずに愛を貫いた、感動必至の作品です。

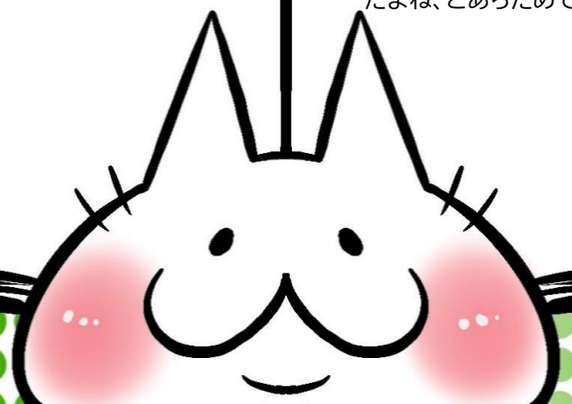
吉澤康子 文芸翻訳者

アーモンド
祥伝社　1,600円＋税
ソン・ウォンピョン著／矢島暁子訳

この本の中で、男子高生のユンジェとゴニは、本当に生きている。生き生きと、自分の抱えているものを相手に見せて、相手と交わって、ぶつかって、生きている。そして確実に前に向かって進んでいく。感情というやっかいな代物が人生を動かしてくれるということに、魅力的な登場人物たちが気づかせてくれる物語。

吉原育子 韓国語翻訳者

バオバブのお嫁さま マダガスカルのむかしばなし
論創社　2,400円＋税
編訳・絵 川崎奈月

現代アフリカ文学は日本でおなじみですが、その根になった民話伝承の紹介はまだわずかです。もったいない。内陸部のアフリカとは一味違うカラフルな文化を持つマダガスカル島の楽しい話、ふしぎな話、こわい話に、太陽を溶かしこんだような訳者自身のイラストが怪しくていい感じです（←褒めてます）。

和爾桃子 翻訳者